

令和7年度 主要事業評価シート

① 基本事項

計画コード	22104	事業名	地価調査・地番図整備事業			
事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()					
施策体系	施策の大綱	06:行政経営		予算科目	会計	01:一般会計
	基本施策	04:持続性を保つ健全な財政運営			款	02:総務費
	施策の方向	01:多様な手法による安定した財源の確保			項	02:徴税費
	重点プロジェクト	-			目	02:賦課徴収費
事業期間	H 18 年度 ～ R - 年度		主な根拠法令等	地方税法・亀山市税条例		

評価分類	A1
------	----

担当部署	
部	総務財政部
課	税務課 資産税G

② 事業概要 (P)

事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
固定資産税について、適正な評価・公正な課税を行うにあたっては、地価の変動、資産状況の変化等を把握し、評価に反映させる必要がある。このためには、地価調査と地番図の整備を継続的に行う必要がある。	市内全域における土地	固定資産の評価の適正化と均衡化を確保し、公平・公正な賦課を行っている。	路線価の付設及び更新、土地の異動を固定資産(土地)システムに反映させ、搭載された航空写真の参照や地図上での計測を行うことにより、効率的に適正な評価を行う。また、不動産鑑定士による鑑定価格を活用して、標準宅地の適正な時価を評定する。 なお、3年ごとの評価替えにあたる令和6年度評価替えでは、雑種地にかかる評価基準の見直しを行う。

③ 事業の実施状況 (P・D)

年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度						
事業計画	○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○雑種地基準作成、現況判読	○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○雑種地要領作成	○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○評価要領協議・検討	○固定資産(土地)システムを用いた評価 ○不動産鑑定士による土地の鑑定評価 ○評価要領素案作成						
活動実績 (計画通り実施できたか)	固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による標準宅地の鑑定及び時点修正を行った。 さらに、令和6年度の評価替えに向けて、雑種地評価基準をもとに現況判読を行った。	固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による鑑定評価の時点修正及びゴルフ場素地の鑑定評価を行った。 さらに、令和6年度の評価替えに向けた雑種地評価要領を作成した。	固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による鑑定評価の時点修正を行った。 令和9年度の評価替えの評価要領作成に向け、各地目に応じた評価事務の内容について整理・把握を行った。	固定資産(土地)システムを用いて、地番図の更新、路線価の更新、画地認定図の異動修正及び条件計測、公図のイメージデータ異動更新を行った。 また、不動産鑑定士による標準宅地の鑑定及び時点修正を行った。 さらに、令和9年度の評価替えに向け、土地評価要領素案の作成を行った。						
計画額 予算額	事業費	28,400千円	28,042千円	17,200千円	17,204千円	15,800千円	16,526千円	26,700千円	28,580千円	
	国・県支出金		0千円							
	地方債		0千円							
	その他		0千円							
	一般財源	28,400千円	28,042千円	17,200千円	17,204千円	15,800千円	16,526千円	26,700千円	28,580千円	
決算額	事業費	28,040千円		17,203千円		16,526千円		28,421千円		
	国・県支出金	0千円		0千円		0千円		0千円		
	地方債	0千円		0千円		0千円		0千円		
	その他	0千円		0千円		0千円		0千円		
	一般財源	28,040千円		17,203千円		16,526千円		28,421千円		
①期間内計画額(R4-7)		88,100千円		②期間外計画額(R8-)		-		①+②総計画額		88,100千円

(令和7年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	0千円
当年度の最終予算額	28,580千円
次年度への繰越額	0千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	雑種地評価基準の見直し	雑種地の利用状況に応じた、評価基準を策定し、評価替えを行う。	活動	%	計画値	70	100		
					実績値	70	100		
	課題整理及び評価要領作成	課題の洗い出しを行い、解決に向けた検討と評価要領を作成する。	活動	%	計画値			30	70
					実績値			30	70
					計画値				
					実績値				

⑤ 成果 (C)	判定	事業実施により得られた成果(誰に(何に)対してどのような効果があったか)
	A	土地の鑑定評価による時点修正や路線価の更新等を行うことにより、資産価値の変動を的確に把握し、適正な評価を行うことができた。 また、地番図の更新を実施したことで、窓口等で提供する閲覧図面についても、最新の情報に基づくものを供することができた。 さらに、令和9年度の評価替えに向けて、土地評価要領の素案を取りまとめることができた。
十分な成果を得た		

事業の対象	事業の目的
市内全域における土地	固定資産の評価の適正化と均衡化を確保し、公平・公正な賦課を行っている。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の達成状況等を踏まえた課題事項
	令和9年度の評価替えに向けては、固定資産評価基準に準拠した評価事務の方法及び手順を定める「土地評価事務取扱要領」を作成し、評価の一層の適正化を図る必要がある。 また、評価替えに係る作業工程については、十分な検証を行うとともに、作業に伴うコストを考慮し、効率的に進めることが求められる。

⑦ 事業の 展開 (A)	方向性	
	継続(現状維持)	現状どおり事業を継続する
	改善・見直し内容	
	令和8年度で対応する(した)もの	令和9年度以降で対応するもの
	令和8年度に撮影する航空写真については、経費縮減を図るため、県内市町との共同撮影を実施することとし、本市としても今回初めて共同事業に加わることから、当該費用を予算計上した。	3年ごとの固定資産評価替えを重ね、きめ細やかな評価へと着実に前進している。今後は、令和9年度以降の適正評価に向け、従来の地目判読に加え、新たな手法の検討を進め、評価の適正化を図る。

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
成果判定	A	A	A	A
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)	継続(現状維持)

1次評価者	総務財政部 税務課 資産税GL 高沢 林子
最終評価者	総務財政部 税務課長 新山 さおり